

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和4年度分)

<県の評価等>

施設所管部名: 子ども・福祉部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県身体障害者総合福祉センター (津市一身田大古曾 670 番地2)
指定管理者の名称等	社会福祉法人三重県厚生事業団 理事長 井戸畑 真之
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの事業に関する業務 (生活援助棟としての業務、福祉センターA型としての業務) ・センターの施設及び設備の利用の許可等に関する業務 ・センターの利用料金の收受等に関する業務 ・センターの維持管理及び修繕に関する業務 ・その他、センターの管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R3	R4	R3	R4	
1 管理業務の実施状況	B	B			基本協定書及び年度協定書に基づき適切に管理業務を実施するとともに、機器や設備に支障が生じないように維持管理及び修繕を行っている。
2 施設の利用状況	B	B			生活援助棟の利用者数(R3: 24,746人→R4: 23,990人)が減少しているが、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した影響で、定期的な利用者の利用控え等があり、こうした点を考慮する必要がある。 なお、運動施設の利用者数(R3: 16,470人→R4: 20,438人)はコロナ禍ではあるが増加しており、スポーツの裾野の拡大が図られている。
3 成果目標及びその実績	B	B		—	新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、成果目標4項目とも目標を達成することができていない。引き続き、地域の潜在的なニーズの掘り起こしを行うとともに、個々のニーズに応じた取組を強化する必要がある。 なお、指定管理者が独自に設定した成果目標の地域生活移行率については83.3%であり、目標値50%を大きく上回っていることから、通過型訓練施設としての役割を果たしている。

※「評価の項目」の県の評価：
 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
 「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の管理業務について、老朽化が進んでいる中、適宜修繕等を実施することで、適正な維持管理を行っている。 ・施設の利用状況について、利用者満足度は利用者へのきめ細かな対応等により、引き続き93%と高い水準を維持しており、障がい者スポーツにおいては、「三重県障がい者スポーツ支援センター」を運営し、ワンストップでの相談対応や情報発信に取り組まれており、障がい者スポーツの裾野の拡大に貢献している。 ・加えて、福祉・医療関係の実習生の受入れや、専門的な知識・技術を持つ職員の派遣など、地域福祉の向上にも寄与している。 ・成果目標について、新型コロナウイルス感染症の影響により達成できなかったことは、一定やむを得ないものとする。なお、専門的・特徴的な訓練を実施した結果、多数の利用者が各種資格や技術を習得し、生活の質の向上へ貢献している。 <p>以上のことから、三重県身体障害者総合福祉センターの指定管理者として概ね適切に管理・運営を行っている判断する。</p>
--------	---

<指定管理者の評価・報告書(令和4年度分)>

指定管理者の名称: 社会福祉法人三重県厚生事業団

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

① 三重県身体障害者総合福祉センター事業の実施に関する業務

- ・ 三重県身体障害者総合福祉センター(以下「センター」という。)の維持管理業務をはじめ、生活援助棟の業務として「施設入所支援」「日中活動支援」等の事業、また、福祉センターA型の業務として「リハビリテーション」「障がい者スポーツ」等の事業を実施した。
- ・ 障害者支援施設について、施設入所 422 名、自立訓練(機能訓練)320 名、自立訓練(生活訓練)213 名、就労移行支援 26 名、生活介護 100 名の利用があった。(月末実利用者数年間計)
- ・ 新型コロナウイルス感染症について、11 月6日に利用者1名の罹患が確認され、その後クラスターとなった。11 月 22 日までの間で累計利用者 17 名、職員7名が罹患したが、保健所、対策チームのもと、感染対策の徹底に努めた。
- ・ 障がい者スポーツの推進については、定期的にスポーツ教室(37 回開催、参加者 209 名)を開催した。
- ・ 令和4年度三重県初級障がい者スポーツ指導員養成講習会(7月2日～3日・9日～10日:修了者数 21 名)・中級障がい者スポーツ指導員養成講習会(1月 7 日～9 日:修了者数 11 名)を開催した。
- ・ 第 22 回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」(10 月 29 日～31 日)に個人競技の選手 52 名、役員 45 名が参加。三重県選手団として、個人競技では過去最多のメダル獲得数(40 個)となり、団体競技ではバレーボール(身体障がいの部・男子)が準優勝した。
- ・ 8 月1日から新たに「三重県障がい者スポーツ支援センター」を運営し、障がい者スポーツの裾野の拡大に向けて、障がい者スポーツに関する情報収集や情報提供、障がい者スポーツに関する相談業務、県民・企業等と選手・競技団体との新たな関係構築に取り組んだ。開設後 53 件の相談があり、障がい者スポーツの体験会を実施したい企業に障がい者スポーツ団体を紹介したり、水泳の練習をしている障がい者からの相談により、練習のサポートを行う障がい者スポーツ指導員のマッチングを行った。
- ・ 施設貸出では、運動施設(テニスコート・グラウンド・体育館)1,409 件、20,438 名、研修施設 310 件、4,071 名の利用があった。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・ 維持管理については、施設及び設備について適正な管理を実施した。
- ・ 修繕については、生活援助棟男性浴室大浴槽水栓修理及び天井煙感知器交換修理など、計 90 件の修繕を実施した。

③ 県施策への配慮に関する業務

- ・ 利用者(障がい者)の人権尊重への取組として、意見箱投書に対し直接回答及び文書回答を行った。
- ・ 事故を未然に防止するため、各施設においてヒヤリ・ハット事例の検証を行うとともに、全職員が事例や事故防止策を共有した。
- ・ 県による障がい者施設の従事者を対象とした社会的検査(PCR 検査)を定期的を実施し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努めた。
- ・ 職員補充の際には、男女共同参画の観点をつまえて公募するとともに、育児休暇の取得等の環境整備に努めた。
- ・ 福祉用具セミナー、福祉用具フォーラム等をおして、福祉用具の相談・自助具の製作、福祉用具や住宅改修の研修を開催する等、福祉用具の普及・促進と産業振興に寄与した。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・ 情報公開については、法人情報公開実施要綱に基づき運用を図ったが、開示請求は0件であった。
- ・ 「個人情報保護に対する基本方針」及び「個人情報の保護に関する法律に基づく公表事項」を窓口にて公表した。
- ・ 利用者の個人情報管理について、書類は施錠できる書庫に、電子データはアクセス権を制限する等、管理を徹底した。

⑤ その他の業務

- ・ センター全体の普及啓発として、随時、ホームページの更新を行った。また、広報誌「C」を年2回発行するとともに、YouTube「三重県厚生事業団チャンネル」等により、普及啓発を行った。
- ・ 障がいに対する理解促進や次世代育成の場として活用できるよう、新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、可能な範囲で実習生(福祉・医療関係の専門学校から 84 名)を受け入れた。また、再開された三重県障がい者スポーツ大会では、多くのボランティアを受け入れた。
- ・ 三重県のリフト付バス「太陽号」の適正利用のための利用者確認等を実施した。利用件数は7件であった。

- ・ 行政機関、教育機関等からの依頼により、専門的な知識や技術を有する職員を講師や審査員等として派遣した。また、障害者総合支援法に基づく障害支援区分の判定等を行う際の2市の審査会委員へ職員を派遣するとともに、障がい者スポーツ教室へ障がい者スポーツ指導員を93名派遣した。また、スポーツ用具の貸出を無料で209件行った。

(2) 施設の利用状況

施設の利用状況(延利用者数)については、下記のとおりである。(単位:人)

	R3	R4
施設入所支援	12,883	13,072
日中活動支援	11,779	10,839
短期入所	84	79
運動施設	16,470	20,438
宿泊施設	0	0
研修施設	3,487	4,071

2 利用料金の収入の実績

利用料金の収入の実績は下記のとおりである。(単位:円)

	R3	R4
支援費	168,125,931	165,392,088
診療報酬	7,156,345	5,649,253
介護保険	10,160,708	9,682,801
運動施設	974,545	1,023,245
宿泊棟	0	0
計	186,417,529	181,747,387

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R3	R4		R3	R4
指定管理料	147,757,000	157,585,175	事業費	52,720,711	49,376,519
利用料金収入	186,417,529	181,747,387	管理費	397,860,477	411,181,529
その他の収入	120,330,195	105,708,450	その他の支出	2,414,104	2,334,918
合計 (a)	454,504,724	445,041,012	合計 (b)	452,995,292	462,892,966
収支差額 (a)-(b)	1,509,432	△17,851,954			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	1 日中活動系サービス利用率 80%【日中活動延べ人数/年間日中活動利用定員】 2 リハビリテーションの実施件数 5,300 件 3 三重県障がい者スポーツ大会・ふれあいスポレク祭参加人数 3,500 人 4 福祉用具相談指導件数 350 件
成果目標に対する実績	1 日中活動系サービス利用率 67.7%(10,839 名/16,020 名) 2 リハビリテーションの実施件数 3,838 件 3 三重県障がい者スポーツ大会・ふれあいスポレク祭参加人数 1,591 人 4 福祉用具相談指導件数 239 件

今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・日中活動系サービス利用率は 67.7%で、新型コロナウイルス感染症による影響もあり目標値 80%を下回った。今後も、支援部ケースワーカー及び高次脳機能障害支援コーディネーターを中心に病院入院者や地域包括支援センター利用者のニーズ把握に努めるとともに、利用案内や広報誌の作成、チラシ・PRビデオを活用してニーズの掘り起こしと施設のPRに努め、関係機関と連絡を密にして利用率を高める。 ・上記成果目標に加え、令和3年度から基本協定に三重県障がい者スポーツ大会・ふれあいスポレク祭参加人数(3,500人)・リハビリテーションの実施件数(5,300件)、福祉用具相談指導件数(350件)の目標を設定したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、どれも目標は達成できなかった。スポーツイベントについて、引き続き、社会参加の推進を図るとともに、競技性の向上を視野に入れながら開催していく。福祉用具相談指導についても、障がいのある方が安全で快適な生活が送れるよう、相談指導を継続していく。 ・自主目標の地域生活移行率は 83.3%であり、目標値 50%を大きく上回った。引き続き、個別支援計画に基づき地域移行支援を実施し、通過型訓練施設としての役割を果たしていく。また、簡易自動車運転シミュレーターによる評価・パソコン訓練等、利用者ニーズに合わせた取組を強化していく。
---------	--

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R3	R4	
1 管理業務の実施状況	B	B	三重県身体障害者総合福祉センター管理に関する協定に基づき、県担当課との協議のもと、適正に管理業務を実施した。
2 施設の利用状況	B	B	生活援助棟については、医療機関及び行政機関等と連携し、受傷後から社会復帰後の支援まで関わり、通過型訓練施設として利用者の社会復帰支援を実施した。 また、診療については、主に医療機関及び居宅介護支援事業所等と連携し、在宅障がい者、要介護者等を対象とした外来通院リハビリテーション、通所リハビリテーション等を実施した。
3 成果目標及びその実績	B	B	良質なサービスを提供し、利用者の満足度を高めるため、ニーズの変化に対応するバランススコアカードをツールに用いて事業運営を実施した。 実績については、基本協定に基づく成果目標は新型コロナウイルス感染症の影響もあり目標値に至らなかったが、地域生活移行率については、目標値を大きく上回った。

※評価の項目「1」の評価： 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価： 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・成果目標(①日中活動系サービス利用率 80%、②リハビリテーションの実施件数 5,300件、③三重県障がい者スポーツ大会・ふれあいスポレク祭参加人数 3,500人、④福祉用具相談指導件数 350件)について、新型コロナウイルス感染症による影響もあり、達成できなかった。(なお、新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生し、利用停止となった11月7日から12月8日までの期間の利用者数を、クラスターが発生する前月の平均値に置き換えると、日中活動系サービス利用率は 74.4%となり、令和3年度の 73.3%を若干上回る結果となる。) ・日中活動系サービス利用について、高次脳機能障がい者への訓練や、自動車訓練、日本情報処理検定協会検定試験の実施や受験支援等、専門的・特徴的な訓練を実施した結果、多数の利用者が各種資格や技術を習得して、生活の質の向上へ貢献できた。 ・リハビリテーションについては、ニーズを分析しながら必要なリハビリテーションを効果的に実施した。 ・障がい者スポーツ事業については、開催方法を工夫したり、感染防止対策を講じながら開催したことにより、障がい者スポーツの裾野の拡大に貢献できた。また、社会参加の促進及び競技性の向上を視野に入れ、各種スポーツ団体と連携して三重県障がい者スポーツ大会を実施できた。 ・自主目標(地域生活移行率 50%)に対する実績については 83.3%で、成果目標値を上回った。 <p>上記の取組等により、利用者満足度は 93%となっており、令和3年度に引き続き、高い水準を維持するとともに、指定管理業務を適正に実施した。</p>
--------	---

